いちき串木野市医師会 大幸民志 医師会立脳神経外科センター 大幸民志





令和2年10月21日発行



寝たきりに ならないために

肩腱板断裂ってなんだ?

医療法人南洲会 南洲整形外科病院 内野 潔先生	P 4	٠5
知ってほしい 言語聴覚士 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P2	٠3
てんかん外来のお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • •	Р6
リモート面会を始めました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • •	Ρ7
感染症対策に対する当院のお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 8	٠9
地域医療を支える 医師会会員病院紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P10	·11
みんなの掲示板・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· · · · F	212



知ってほしい 言語聴覚士

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター 訪問看護ステーションさくら 言語聴覚士 向井 優善



言語聴覚士という職業を聞いたことがあるでしょうか。関係する方々には、ここ数年で少しずつ認知されてきている実感はありますが、まだまだ知られていない職業なので少し紹介をします。言語聴覚士という職業は、主に、聴く、話す、読む、書く、食べる、記憶力や注意力といったことに困っている方を支援します。他にも誤嚥性肺炎を起こされた方や顔面神経麻痺の方、子供の言葉の遅れなども支援を行い、言語聴覚士の需要は年々増えています。また、患者様や利用者様、家族や関係職種等との関わりから、支援する立場ではあるものの、いつも多くのことを学び、経験させて頂いています。

その中でも訪問リハビリでは、利用者様や家族と密にコミュニケーションをとることや、関係職種と目標達成に向けた話し合いをすることの重要性を日々痛感しています。言語聴覚士の訪問リハビリとしての役割は、食事の際のポジショニング調整や摂取方法、食事形態の提案、栄養状態の把握・栄養食品の検討等、食事に関することが多くなっています。また、コミュニケーション面として、呼吸や発声練習、言語練習(絵カードを使った練習や文字をみながらの発話練習等)、高次脳機能練習(ノートを使った記憶や注意の練習、買い物に行くために計画を立てる練習)、小児の言語発達訓練(サ行の練習や語彙を増やす練習等)など小児~高齢者まで幅広く支援をしています。

私は、言語聴覚士として約5年が経ち、病棟3年、在宅(通所・訪問リハビリ)2年経験しています。入院中は、麻痺や症状の改善を目的に、飲み込みの筋力訓練や言語訓練、注意力の訓練を行っています。一方、在宅では、依頼内容により支援の進め方を決定し、週に1~3回程度支援をしています。依頼内容は、ムセ込みが多くなった、口から少しでも食べたい、言葉が出にくい、呂律がまわりにくい。肺炎を繰り返したくないなど予防から機能向上等多岐に渡ります。初回介入で評価を行い、より具体的な目標を立てて訪問リハビリはスタートします。病院での生活とは一変し、訪問リハビリでは利用者様の生活の場でリハビリを行います。家にいるだけで笑顔が増えた例や発話が増えた例、食事量がUPした例等、色んな関わりをさせて頂ました。その中でも、特に印象に残る利用者・ご家族の方がいらっしゃいますので2組お話しします。

1 例目は、70 歳代女性。事例の夫と義娘より「本人が昔好きだったものをもう一度食べてほしい」という気持ちが叶った例となります。利用者様は、病気の進行と共に食事をすることが難しくなりました。しかし、ご家族の希望として「少しでも食べてほしい」と話されました。家族の希望を実現するために、多職種での連携を図り、評価・訓練を行い、少量だけ口から食べることができました。もう一度食べた姿を見たご家族の「笑顔」は今でも忘れることはできません。家族は、病前に「食べることが大好きだった」「私よりもたくさん食べていた」と昔の風景を思い出しながら、嬉しそうに、懐かしそうに話をして頂きました。その中で一番「刺身が大好きだった」と話されました。どうにか食べられないかと検討し、本人の飲み込む状態に合わせて食形態の工夫を行い、本人の好

きだったものをまた、食べることもできました。私は訓練する中で、食べたということより、今までずっと側にいて支えてきたご主人の笑顔がみられたことを何より嬉しく思いました。

2 例目は、40 歳代女性。言葉の問題を抱えている中で、自分がしてみたいことを実現した例となります。利用者様は母親と弟様の3人暮らしをしています。脳梗塞後遺症により、話す・書くことが出来なくなり、うまくコミュニケーションが取れない状況でした。当初は、家族に上手く意思伝達できることを目標にリハビリを進めていきました。利用者様はコツコツとリハビリや自主練習を頑張り、日が経つにつれ家族や親戚、近所の方から「言葉が出るようになった、話そうとする気持ちが増えた」と言われることが多くなりました。ある時、一人で祭りに行ったとの話を伺いました。普段、外出はいつも御家族と一緒に行かれているのに、私はびっくりして家族から細かく話を聞きました。なんと、祭りを見るだけでなく、お店の人とやりとりし、商品を2つも注文できたとのことでした。祭りをとても楽しんだ表情が伺え、私まで嬉しくなりました。

「食べること」や「コミュニケーションをとること」は、生きていく中で必要なことです。しかし、病気や加齢の影響により、食べることや話すことが行いにくい方がいることも事実です。「食べたい・話してみたい」を、少しでも後押しし、笑顔が引き出せたら、これ以上私達にとって嬉しいことはありません。

また現在では、介護予防事業で「ひっかけん体操」など予防的な取り組みも増えてきています。 訪問リハビリにおいても「口の健康」を守るための予防は非常に大切だと考えており、予防的な関わりも多く行っていきたいと思います。

私達は「してみたい」を実現できるよう、利用者様やご家族とのコミュニケーション、評価〜訓練等のリハビリ、多職種との連携を大事にします。

事業所紹介

「いちき串木野市医師会立脳神経外科センター訪問看護ステーションさくら」

行動指針「やさしく・強く・おもしろく」優しさを優先し、専門職として強さを持ち、 自分自身も楽しむ。

一緒に働く仲間が、助け合い協働していく、温かいステーションです。地域の専門職の方々と連携し、「生きることの支援」を実践します。地域の訪問看護を必要とされているすべての方に、訪問看護を届けます。

おしえて! ドクター

長さきりに対している。

医療法人南洲会 南洲整形外科病院 内野 潔先生



肩関節は、人体の関節で最大の可動域を有しています。そのため、スポーツや日常生活において、広い範囲で様々な動作が可能となるという利点を有しています。逆に、よく動くことによる負担も大きく、様々な障害を起こしやすいという難点があります。若いころは脱臼、中年では五十肩、壮年では腱板断裂などです。

腱板断裂とは

腱板は、肩甲骨(肩の上方から後方に触れます)

と上腕骨近位(腕の付け根)を繋ぐ4つの筋肉が上腕骨近位に付着する部分が、板状の腱になっているため、こう呼ばれています。

4つの筋肉のうち上方に付く筋肉が棘上筋です。 この棘上筋の付着部は最も断裂を起こし易いところ です。ここは骨頭と肩峰(肩関節の屋根)に挟まれ 傷つき易く、断裂する一因になると考えられます。 (図1、右肩を前方から見た模型、三角筋をはずし てあります。)

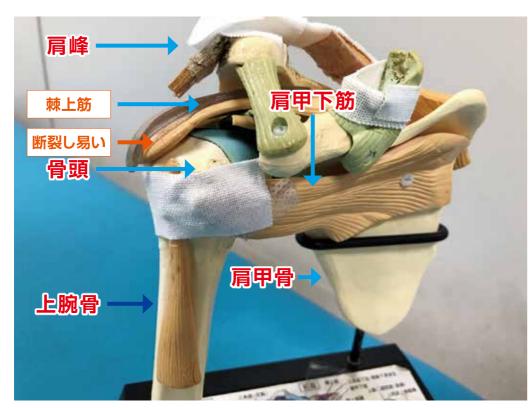


図1 肩模型 腱板



腱板の変性は 40 歳代から起こり、断裂も 40 歳代から発生し 60 歳代でピークに達します。男性の右肩に発生することが多く、肩への負荷の大きさが、一つの要因になっていることが考えられます。診断は急性期にはMRIにより比較的容易に診断可能です。(図 2 白い部分が断裂部です)

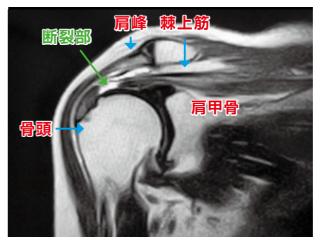


図2 MRI 腱板断裂

腱板が完全に断裂すると、自然にくっついて治る ことはないと考えられています。ただし疼痛がなく なり、日常生活に支障がなくなることはあります。 (ほかの筋肉が代償すると考えられます)

治療法は

一般的には、保存的に(リハビリを行い)治療し、 疼痛等残存し、仕事や日常生活に支障があれば手術 を行うことになります。

手術法は

腱板は、付着部(腱が骨に付くところ)で断裂することが多く、腱を骨に縫合することになります。

ただし、断裂部が大きく縫合できない場合、筋肉を移行することがあります。また、再断裂の可能性があるとか(特に断裂部が大きい、筋肉、腱の変性が強い場合)、骨と腱を縫合するため、縫合部がしっかりするまで時間がかかるなどの問題点もあり、手術を選択するかどうかは個別に相談して行うことになります。

最近は、関節鏡を用いて腱板断裂部を縫合することが多くなっています。(図3 MRI 術後) (骨にアンカーを打ち込んで、アンカーに付いた糸で腱板を縫合します)

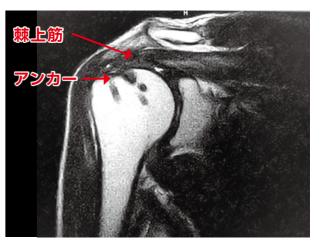


図3 腱板縫合術後MRI

最後に

腱板断裂は変性を基盤に起こることも多く、 ちょっとした外傷で発症する事があります。肩を上 げ下げする時の痛みが続く場合整形外科専門医受診 をおすすめします。



リモート面会を始めました



コロナ感染症拡大に伴う面会制限による家族の皆さま、 患者様の負担(不安)軽減を目的に医療サービスの 一環としてリモート面会を行っています。

リモート面会を希望されるご家族には、事前予約をして頂いて面会を 行っています。

•利用日時 月曜日~金曜日(※土曜日、日曜日、祝日は除きます)

14:30~15:30

※1面会あたり5分程度 面会時間は、変更されることもあります。

所

> iPadを使用して、ビデオ通話で患者様とご家族で お話しして頂いています。



ご家族側 外来待合室/連携室

ビデオ通話 FaceTime







患者様 居室

※掲載の写真については患者様の同意を頂いています

てんかん外来のお知らせ

2020年8月より当院でも『てんかん外来』がスタートしました。 診療日は第1・3・5木曜で、診療時間は9:00~17:00となります。

診療ご希望の方は事前にご相談ください。(要相談)

てんかんとは・・

突然意識を失い、反応がなくなる、けいれん するなどの症状を繰り返し起こす病気です。 乳幼児期から高齢期まで全ての年代で発病する 可能性があり、3歳以下の発病が最も多く 80%は18歳以前に発病すると言われています。 最近の傾向では人口の高齢化に伴い、脳血管 障害などが原因となる高齢者の発病が増えて いるようです。

Profile -プロフィールー

田中 達也

出身大学 九州大学

専門分野 脳神経外科一般

神経内科一般 てんかん治療

(特に難治性てんかんの治療)

脳波診断学

趣味・特技 長距離ドライブ、風景写真撮影

負北薩地区のてんかん治療への貢献。

(特に小児と成人の難治性てんかん患者 さまと、最近多くなってきた高年期発

症のてんかん患者さまへの治療)



感染症対策に対する当院のお知らせ



外来受診の皆さまへ

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、 症状に応じての受診対策を行っています。 ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。

- ①発熱(37.5℃以上)の発熱がある方
- ②のどの痛み、咳などの呼吸器症状が持続している方
- ③コロナウイルス感染者と接触歴がある方
- 4だるさや息苦しさがある方

上記症状に1つでも当てはまる方は 到着後、車内から



0996-32-9999

へお電話ください。

電話で指示があるまで院内に入らず 車内で待機していてください。

季節性インフルエンザワクチン 接種時期ご協力のお願い



今年は過去5年で最大量(最大約6300万人分)のワクチンを 供給予定ですが、より必要とされている方に確実に届くように、 ご協力をお願いします。

一 接種希望の方はお早めに

65歳以上の方(定期接種対象者)※

10月1日~

※65歳以上の方のほか、60歳から65歳未満の慢性高度心・腎・呼吸器機能不全者等 ※定期接種の開始日は、お住まいの市町村で異なりますのでご確認下さい。

上記以外の方は

10月26日まで接種をお待ちください

65歳以上の方の接種ができるようご協力をお願いいたします

10月26日~

接種希望の方はお早めに

医療従事者 基礎疾患を有する方 妊婦 生後6ヶ月~小学校2年生

上記以外の方も接種できます

皆様へのお願い

- ・感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いの徹底もお願いします。
- ・ワクチンの在庫数には限りがありますので事前にお電話での確認をお願いします。
- •インフルエンザワクチンは重症化予防などの効果がある一方で、発病を必ず防ぐわけではなく、接種時の体調などによって副反応が生じる場合があります。医師と相談の上、接種いただくとともに、接種後に体調に異変が生じた場合は医療機関にご相談いただくようお願いします。

0

8



医師会会員病院紹介

地域医療機関との相互連携を一層密に、医療を必要とする患者さんのニーズに応え、適切で切れ目のない医療提供の実現を目指しています。

医療法人 浩成会

産科・婦人科 久米クリニック



◆ 産科・婦人科

理事長·院長 / 久米 浩太

住 所 / いちき串木野市曙町 25番地電 話 / (代) 0996-32-7663

(FAX) 0996-32-8453

診療時間 / 【月・火・木・金】

午前 9:00~13:00 午後14:00~18:00 【水】

午前 9:00~13:00

午後休診 【土】

午前 9:00~13:00 午後14:00~17:00

休診日/水(午後)日・祝日

診療案内

受付時間		月	火	水	木	金	±	
午	前	0	0	0	0	0	0	×
午	後	0	0	×	0	0	17:00まで	×

当院は昭和36年(1961年)11月に京町に久米産婦人科として開院、昭和41年(1966年)に現在の曙町に移転しました。平成5年(1993年)より産科・婦人科 久米クリニックと改名し、今年で57年になります。

平成29年(2017年)3月、少子高齢化などの影響で分娩数の減少が続いていたため、残念ながら分娩取り扱いを中止いたしました。

今後は、妊婦健診、産後ケア、母乳育児相談、子宮がん検診などの婦人科健診、子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮内膜症などの婦人科疾患、月経不順、不妊症、更年期障害、などの内分泌疾患など、すべての年代の女性の皆様の相談に対応できるよう、いちき串木野市の女性の「かかりつけ医」として、微力ながら頑張っていく所存です。

これからも、どうぞよろしくお願いします。

医療法人社団博兎会

くしきの宮崎小児科



◆ 小児科

院 長 / 岩下 真由美

住 所/ いちき串木野市昭和通 134-4

電 話 / 0996-32-1166

診療時間 / 【月・火・水・木・金】

午前 9:00~13:00 午後15:00~19:00

【土】

午前 9:00~13:00 午後14:00~17:30

休診日 /日·祝

診療案内

受付	時間	月	火	水	木	金	±	B
午	前	0	0	0	0	0	0	X
午	後	0	0	0	0	0	17:30まで	×

当院は 2006 年開業の小児科専門のクリニックで、小児科専門医による診療を行っております。いちき串木野地区の小児医療に少しでも貢献できればと考えまして、平日は 19 時まで診療を行っております。また、お盆期間中や年末は日曜を除き通常通り診療を行っております。(ただし、年末 30 日、31 日は 18 時までの診療となっております。)

診療時におきましては、診察室を病児用の診察室と健康児用(予防接種・健診用)の診察室の2つに分けております。感染症やその疑いがある患者さんへは別途個室を3部屋設けており、他の患者さんとの隔離が可能となっております。院内感染を少しでも抑止すべく医療用の空気清浄器(細菌及びウイルスに対応)を診察室と待合及び全個室に設置しております。

医療法人芳清会

串木野内科・循環器科



◆内科・循環器科・呼吸器内科

院 長 / 有川 清猛

副院長/有川朋芳

住 所 / いちき串木野市中尾町 72

電 話 / 0996-33-2211

診療時間 / 【月・火・水・金・土】

午前 9:00~13:00 午後 14:00~17:30

【木】

午前 9:00~13:00

午後休診

休 診 日 /日、祝、木曜午後

診療案内

受付	時間	月	火	水	木	金	土	B
午	前	0	0	0	0	0	0	×
午	後	0	0	0	×	0	0	×

平成元年設立、ベッド数 19 床の有床診療所です。 「継続は力なり」「暖かい心のこもった診療」をモットーに院長をはじめ、スタッフー同心掛けています。 標榜科目でもあります循環器科の草分けとして地域 医療の最前線を担って 30 年経過いたしました。開院 当時はまだ循環器という名称は珍しく市民の方々にみられていたと思います。

現在、介護保険分野では、グループホームさくらの 丘も立ち上げ、常勤医2名、非常勤医2名体制で、心 疾患を主に、内科一般に取り組んでおります。いちき 串木野市医師会の先生方はもとより、鹿児島大学病院、 鹿児島医療センター、鹿児島市立病院、川内市民病院、 済生会川内病院と幅広く連携し地域住民の健康管理、 治療に邁進する所存です。

医療法人 南洲会

南洲整形外科病院



◆ 整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科・麻酔科

理事長/園田昭彦

院長/岸本浩

住 所 / いちき串木野市別府 3994-5

電 話 / 0996-32-0051

診療時間 / 【月・火・水・木・金】

午前 9:00~12:00 午後15:00~18:00

【土】

午前9:00~12:30

午後休診

休 診 日 / 日曜、祝日、土曜午後

診療案内

受付時間		月	火	水	木	金	土	
午	前	0	0	0	0	0	0	×
午	後	0	0	0	0	0	×	×

南洲整形外科病院は、平成4年9月に開院以来28年地域の皆様の健康づくりに寄与できるよう努めてまいりました。最近の医療の高度化は目覚ましいものがあり当病院も、それぞれの分野に専門スタッフを揃え、常に医療向上に励み、良質な医療を提供出来るよう努めています。

外来・入院・手術・リハビリ・通所リハの5部門で構成され、外来は、整形外科専門医が問診・症状に応じた精密な検査・手術の必要性・患部の状態・手術計画・術後のリハビリ等の詳細を患者・家族に丁寧に説明し、患者さんの不安を取り除きます。手術は専門性の高い医師が、最新の技術・器機等で年間約400例以上を行っており安心して手術が受けられます。入院は、和やかな雰囲気の中で医療スタッフがしっかり手を組んで、患者さんが安心して治療に専念出来るよう実践しております。リハビリは、昨今、術後のリハビリの重要性が問われ、各患者さんにあった機能回復専門プログラムを作成し、自立生活に至るまで指導訓練を実施しています。

11

の地での掲示板

当センターの献血への取り組み



平成 25 年 12 月 25 日
平成 26 年 12 月 25 日
平成 27 年 12 月 25 日
平成 29 年 1月12日
平成 29 年 12 月 25 日
平成 30 年 12 月 25 日
令和元年12月25日
令和 2 年 7 月 10 日

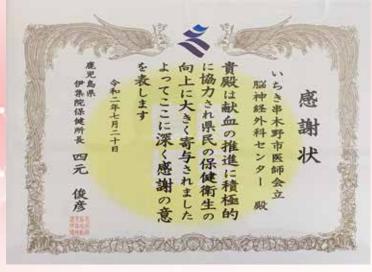
取り組み実績(実施年月日)

当センターでは毎年、クリスマス献血が恒例行事の1つとなっています。業務の合間を縫って協力してくれる職員のお陰で続いており、令和2年7月には、鹿児島県 伊集院保健所長より「献血の推進への協力」に対する感謝状を頂きました。微力ながら貢献できている事を嬉しく思います。

コロナ禍で、血液不足のため、令和2年7月に要請があった際にも協力させて頂き ました。

また今年の冬も、そして来年以降も、医療従事者として献血に取り組んでいきたいと 思います。

皆さんも、町なかで献血車を見かける機会があるかと思います。見かけた際は是非、 献血にご協力をお願いします。



当センター1階待合フロアに掲示